

2014 年秋季講演会「若手セミナー」アンケート実施報告



男女共同参画委員会

伊藤浩子^{※1}、安元 純^{※2}、藪崎志穂^{※3}

野原慎太郎^{※4}、吉岡真弓^{※5}、中屋眞司^{※6}

1. はじめに

平成 26 年 11 月 6 日（木）～8 日（土）熊本県民交流館パレアにて開催された秋季講演会において、会期初日（6 日）の午前中（10：00～12：00）を利用して若手セミナーを開催した。ここでは当日会場で配布したアンケートの集計結果について報告する。

2. アンケートの回答者

アンケートの回答者は 35 名であった。回答者は正会員が 9 名、準会員が 5 名、非会員が 14 名、無回答が 7 名であった。年齢構成は、20 代が 17 名、30 代が 7 名、40 代が 2 名、50 代が 2 名、60 代が 1 名、無回答が 6 名であった。回答者の専門分野は「地下水調査」「水質調査」「地下水汚染」「数値解析」が多かった。また職業でみると 20 代は学生が多く、30 代～60 代では研究者・公務員・地質調査業などが多かった。年齢層をみると 20～30 代の参加者が大多数であったことから、今回のセミナーは主に「若手」をターゲットに開催することができたといえる。ただし会員と非会員の人数が同数であったことから、今後は「春季・秋季講演会には参加しているが非会員」の「若手」に学会員になってもらえるような仕組みやきっかけが必要ではないだろうか。

(1) 若手セミナーに対する意見

今回の若手セミナーについて、表 1 にある 6 つの質問を行い、回答を得た。

Q1 の認知経路については、学会のホームページやメールが 61%、他者からの勧誘が 32% であった。Q2 の参加理由については、「テーマに興味があったから」が 42%、「仕事や研究に役立つと思ったから」が 45%で、参加者の多くが積極的な動機であったことが分かる。Q3 のプログラムの内容については、「大変有意義であった」が 58%、「ある程度有意義であった」が 36%、「普通だった」が 6%であった。Q4 の講演時間については、88%が「適切であった」と回答している。Q5 の今後の若手セミナーの開催希望に関する質問については、「希望する」が 83%と大多数であった。また、その際のテーマに関する Q6 の質問に対しては意見が分かれ（図 1）、多様なニ-

表 1 今回の若手セミナーに関する質問

- | |
|---|
| Q 1 : 本日の若手セミナーが開催されることを何で知りましたか？ |
| Q 2 : 参加した理由は何ですか？ |
| Q 3 : 本日のプログラムの内容はいかがでしたか？ |
| Q 4 : 本日の講演時間について |
| Q 5 : 今後も若手セミナーの開催を希望しますか？ |
| Q 6 : 今後の若手セミナーの内容として魅力的だと感じるものをご回答ください |

※1 地域 地盤 環境 研究所

※2 琉球大学

※3 福島大学

※4 電力中央研究所

※5 産業技術総合研究所

※6 信州大学

ズが浮き彫りとなった。その中でも「地下水研究の意義や社会貢献の事例」「地下水関連企業の取組み」の割合が高かったことから、今後の進路や方向性を考えていく上で参考になるような情報提供が求められていることが分かる。逆に「論文の書き方」「異分野の基礎講座」など学問的な内容に関する回答は少数派である。

(2) 今後の若手支援に対する取り組みについて

今回の若手支援策について、表2にある2つの質問を行い、回答を得た。

Q7の2015年春季講演会において希望する若手支援の企画に関する質問では、「若手セミナー」が53%、「ポスター掲示による意見・情報交換」が21%、「交流会（ランチタイムに昼食をとりながら等）」が19%、「レクリエーション」が7%という結果であり、気軽な“交流”を中心とした企画よりも、研究や今後の進路の参考となるような“情報収集”に主眼を置いた企画の方がよりニーズが高いという結果となった（図2）。最後にQ8の若手支援の企画・運営への参加意思については、「ぜひ積極的に関わってみたい」が7%、「機会があれば関わってみたい」が59%、「興味はあるが難しい」が19%、「企画・運営には興味がない」が11%であった。「ぜひ積極的に関わってみたい」の回答数は2名で、いずれも非会員であった。また「機会があれば関わってみたい」の回答者には20代の準会員が多かった。

3. 最後に

男女共同参画委員会では、今回のアンケート結果を参考に今後の若手支援策に関して検討を進めていく予定です。今回の参加者は20～30代が大多数でした。しかし会員と非会員の人数がほぼ同数であったことから、今後は非会員の若手に学会員になってもらえるような仕組みやきっかけ作りが必要ではないでしょうか。また準会員の方にも、学会活動に積極的に関わってもらえるような方法を、委員会内でも検討していきたいと思っております。最後にアンケートの回答にご協力くださった皆様に厚くお礼申し上げます。

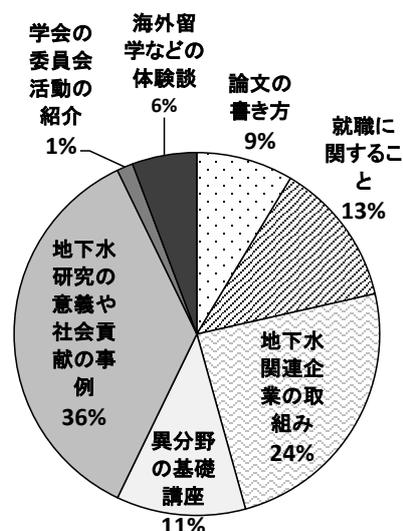


図1 今後の内容について (Q6)

表2 今後の若手支援策に関する質問

- Q7: 2015年春季講演会では若手支援に対してどのような企画を希望しますか？
- Q8: 今後、若手支援に対する取り組み（若手セミナーや交流会）の企画・運営に関わってみたいと思いますか？

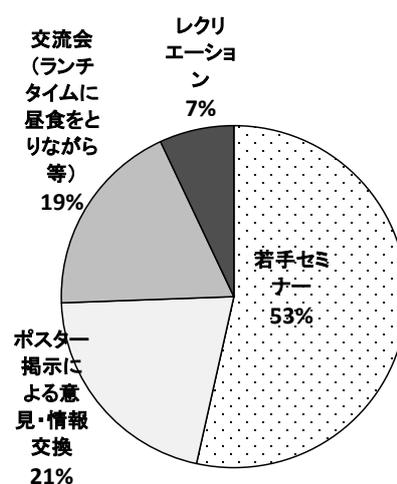


図2 2015年春季講演会において希望する企画 (Q7)